

おわりに

国立青少年教育振興機構 理事長

田中 壮一郎

青少年が心身ともに健やかに成長していく上で、様々な体験をすることが重要であることは国民にも広く浸透しているが、近年その影響に関する実証的な調査はあまりされていないように感じていた。そこで、千葉大学の明石教授に、子どもの頃の体験と、一人前の人間として身につけるべき生きる力のうち、知識を除いたもの（「体験の力」）について調査研究をお願いしたところ御快諾いただき、今回の調査がスタートした。明石先生の御尽力により、優れた研究者による調査研究協力者会議が設けられ、「子どもの頃の体験が豊かな人は、充実した人生を送っているのではないか」との仮説のもと、調査とその分析がなされ、今回のような結論を得ることができた。明石先生をはじめ、調査研究協力者会議のメンバーの先生方に心より感謝申し上げる。

なお、私としても、今回の調査において、若干の分析を試みたので、ここで報告させていただく。

- 今回の調査において「体験」については、①自然体験、②動植物とのかかわり、③友だちとの遊び、④地域活動、⑤家族行事、及び⑥家事手伝いの6つのカテゴリに区分し、それぞれのカテゴリに5項目の質問を設定した。

また、「体験の力」としては、①自尊感情、②共生感、③意欲・関心、④規範意識、⑤人間関係能力、⑥職業意識、及び⑦文化的作法・教養の7つのカテゴリに区分し、同じくカテゴリ別に5項目の質問を設定した。したがって、調査の結果としてそれぞれの項目間 $30 \times 35 = 1,050$ 組の相関関係を把握することができたが、このうち相関関係の強いものを30組取り上げてみたところ、別冊資料 p21-25 のとおりとなっている。

表1. 「体験の力」との相関がみられる30項目の内訳(子どもの頃の体験)

- この30組を「体験」の面からみると、地域活動に関する項目及び家事手伝いに関する項目がそれぞれ30組のうち7項目、ついで友だちとの遊びが6項目、自然体験及び動植物とのかかわりがそれぞれ4項目、家族行事が2項目となっており、特に「バスや電車で体の不自由な人やお年寄りに席をゆずったこと」（地域活動）及び「弱い者いじめやケンカを注意したり、やめさせたこと」（友だ

子どもの頃の体験	項目数
地域活動 バスや電車で体の不自由な人やお年寄りに席をゆずったこと(5) 祭りに参加したこと(1) 近所の小さい子どもと遊んであげたこと(1)	7
家事手伝い 家の中の掃除や整頓を手伝ったこと(3) 食器をそろえたり、片付けたりしたこと(2) ナイフや包丁で、果物の皮をむいたり、野菜を切ったこと(1) 洗濯をしたり干したりしたこと(1)	7
友だちとの遊び 弱い者いじめやケンカを注意したり、やめさせたこと(5) ままごとやヒーローごっこをしたこと(1)	6
動植物とのかかわり 花を育てたこと(2) チョウやトンボ、バッタなどの昆虫をつかまえたこと(1) 野鳥を見たり、鳴く声を聞いたこと(1)	4
自然体験 夜空いっぱい輝く星をゆっくり見たこと(2) 海や川で貝を探ったり、魚を釣ったりしたこと(1) 湧き水や川の水を飲んだこと(1)	4
家族行事 お墓参りをしたこと(1) 家族で家の大掃除をしたこと(1)	2

ちとの遊び)が5項目となっている。また(家事手伝い)では、「家の中の掃除や整頓を手伝ったこと」が3項目であり、「家族で家の大掃除をしたこと」(家族行事)も加えると「お手伝い」関係は8項目となる。

また、「体験の力」の面からみると、カテゴリー間で大きな

差が出ており、人間関係能力が12項目、文化的作法・教養が11項目、共生感が6項目あるのに対して、意欲・関心は1項目、自尊感情、規範意識及び職業意識は1項目も30傑に登場していない。具体的にみると、「日本の昔話を話すことができる」(文化的作法・教養)が8項目と一番多く、「友だちに相談されることがよくある」(人間関係能力)が6項目、「休みの日は自然の中で過ごすことが好きである」(共生感)5項目となっている。

3. 次に項目間の関係をみると、「弱い者いじめやケンカを注意したり、やめさせたこと」が何度もあった人が「ケンカをした友だちを仲直りさせることができる」や「友だちに相談されることがよくある」の割合が高くなっていることは当然だと感じられるが、一見直接関係がなさそうに見える「日本の昔話を話すことができる」こととも相関関係が見られる。

表2. 子どもの頃の体験と相関がみられる30項目の内訳(「体験の力」)

体験の力	項目数
人間関係能力 友だちに相談されることがよくある(6) けんかをした友だちを仲直りさせることができる(2) 初めて会った人とでもすぐに話ができる(2) 人前でも緊張せずに自己紹介ができる(2)	12
文化的作法・教養 日本の昔話を話すことができる(8) お盆やお彼岸にはお墓参りに行くべきだと思う(1) ひな祭りや子どもの日、七夕、お月見などの年中行事が楽しみだ(2)	11
共生感 休みの日は自然の中で過ごすことが好きである(5) 悲しい体験をした人の話を聞くとつらくなる(1)	6
意欲・関心 なんでも最後までやり遂げたい(1)	1

表3. 相関関係がみられた組み合わせの例①

子どもの頃の体験	体験の力	相関係数
弱い者いじめやケンカを注意したり、やめさせたこと(友だちとの遊び)	けんかをした友達を仲直りさせることができる(人間関係能力)	.368**
	初めて会った人とでもすぐに話ができる(人間関係能力)	.259**
	人前でも緊張せずに自己紹介ができる(人間関係能力)	.269**
	日本の昔話を話すことができる(文化的作法・教養)	.246**
	友達に相談されることがよくある(人間関係能力)	.294**
バスや電車で体の不自由な人やお年寄りに席をゆずったこと(地域活動)	日本の昔話を話すことができる(文化的作法・教養)	.272**
食器をそろえたり、片付けたりしたこと(家事手伝い)		.266**
家の中の掃除や整頓を手伝ったこと(家事手伝い)		.260**
花を育てたこと(動植物とのかかわり)		.255**
夜空いっぱい輝く星をゆっくり見たこと(自然体験)		.253**
ナイフや包丁で、果物の皮をむいたり、野菜を切ったこと(家事手伝い)		.252**
弱い者いじめやケンカを注意したり、やめさせたこと(友だちとの遊び)		.246**
洗濯をしたり干したりしたこと(家事手伝い)		.241**

「バスや電車で体の不自由な人やお年寄りに席をゆずったこと」「食器をそろえたり片付けたりしたこと」「家の中の掃除や整頓を手伝ったこと」「花を育てたこと」「夜空いっぱい輝く星をゆっくり見たこと」「洗濯をしたり干したりしたこと」も「日本の昔話を話すことができる」ことと深く関連している。

近年子どもたちの体験に関して「目的」を明確にし、「指導方法」を確立することが大切だと言われ、また、いじめや不登校の防止等を目的とした特別なカリキュラムの開発が行われている。私も、このことは大変大切な視点であり、重要な試みであると考えているが、特定の体験活動を1時間や2時間、あるいは、1日や2日実施することで子どもやクラスが変化することを期待することはむずかしいのではないかと感じている。また、例えば、「いじめ」を解消するためには、私も、子ども達にいじめが卑劣な行為であることを理解させるとともに、いじめを早期発見し、適切な対応を行うことが大切であると考えている。しかし、それだけで本当にいじめが解消できるだろうか。子ども達の持っているフラストレーションやストレス、学校に対する閉塞感を解消することが不可欠ではないだろうか。そのためにも子ども達が仲間同士で、あるいは異年齢集団で日常的に打ち込むことができ、それによって充足感や達成感の感じられる様々な体験活動をさせることが大切ではないかと考えてきた。

今回の結果を見ると、例えば上記のように、子どもの頃の様々な体験が日本の昔話ができるということと相関関係が示されており、体験の内容やその実施方法も大切なことかもしれないが、そのことよりも、体験の力、ひいては生きる力を育てていくためには幼少年期を通じて、日常生活の中で、様々な自然体験、生活体験、社会体験を積み重ねていくことがより重要であることの証明ではないだろうか。したがって、今後このような点を十分認識した上で、子どもたちが日々様々な活動を体験できるよう、それぞれの地域で、活動の機会や場の整備・充実を図っていくことが私たちに課せられている大きな課題であると感じている。

4. 鳩山前総理は平成21年10月の所信表明演説の中で「新しい公共」の必要性を強調され、私も携わった新しい教育基本法においてはこの新しい公共を支える「公共の精神」の大切さが明記されている。

今回の調査においては新しい公共を支える意識、例えば、「電車やバスに乗ったときお年寄りや身体の不自由な人には席をゆずろうと思う」（規範意識）、「できれば社会や人のためになる仕事をしたいと思う」（職業意識）との関係についても分析している。

「電車やバスに乗ったときお年寄りや身体の不自由な人には席をゆずろうと思う」ことについては「バスや電車で体の不自由な人やお年寄りに席をゆずったこと」との相関関係が一番高くなっているが、「家の中の掃除や整頓を手伝ったこと」「かくれんぼや缶けりをしたこと」「食器をそろえたり片付けたりしたこと」「家族で家の大掃除をしたこと」との相関関係もみられる。

また、「できれば社会や人のためになる仕事をしたいと思う」では、「家の中の掃除や整頓を手伝ったこと」「家族で家の大掃除をしたこと」「近所の小さい子どもと遊んであげたこと」「かくれんぼや缶けりをしたこと」「バスや電車で体の不自由な人やお年寄りに席をゆずったこと」「すもうやおしくらまんじゅうをしたこと」などが相関関係を示している。

表4. 相関関係がみられた組み合わせの例②

子どもの頃の体験	体験の力	相関係数
バスや電車で体の不自由な人やお年寄りに席をゆずったこと（地域活動）	電車やバスに乗ったとき、お年寄りや身体の不自由な人には席をゆずろうと思う（規範意識）	.226**
家の中の掃除や整頓を手伝ったこと（家事手伝い）		.219**
かくれんぼや缶けりをしたこと（友だちとの遊び）		.203**
食器をそろえたり、片付けたりしたこと（家事手伝い）		.201**
家族で家の大掃除をしたこと（家族行事）		.198**
家の中の掃除や整頓を手伝ったこと（家事手伝い）	できれば、社会や人のためになる仕事をしたいと思う（職業意識）	.206**
家族で家の大掃除をしたこと（家族行事）		.196**
近所の小さい子どもと遊んであげたこと（地域活動）		.184**
かくれんぼや缶けりをしたこと（友だちとの遊び）		.181**
バスや電車で体の不自由な人やお年寄りに席をゆずったこと（地域活動）		.177**
すもうやおしくらまんじゅうをしたこと（友だちとの遊び）		.177**

以上のように、今回の調査により、あまり関係があると思われなような様々な体験が多様な体験の力と相関関係があることが判明した。その中で特に「新しい公共」という観点から今回の調査をみると、家庭でのお手伝いが総じて高い関係を示している。当機構においても、平成18年度から「早寝早起き朝ごはん」運動を推進するとともに、その中で「読書・手伝い・外遊び」を推奨している。

今回の調査結果をも踏まえ、新たに、青少年育成に携わる団体と連携し、青少年の健やかな成長にとって、体験がいかに重要であるかを広く家庭や社会に知っていただき、社会全体で子どもたちの様々な体験活動の促進・充実を図ることを目的として「体験の風をおこそう運動」をスタートさせたところである。今後、この運動が広く国民の皆様方に浸透することを願うものである。